

新農業資材開発で協業

酸素供給剤と堆肥を複合

保土谷化学工業と朝日アグリは、新しい農業資材の研究開発に関する共同開発契約書を締結した。両社が保有する酸素供給剤と堆肥からなる複合農業資材の開発により、土壌の栄養素や酸素濃度といった畑作物の生育環境の改善と、気候変動にもなう台風や長期降雨、ゲリラ豪雨などの災害対策を可能とすることで安定した作物育成への貢献を目指す。農林水

産省が提唱する「みどりの食料システム戦略」における化学農業・化学肥料の低減にも寄与するものと捉え、協働して持続可能な環境調和型農業に貢献する資材の製品化に取り組んでいく。

保土谷化学は、基盤事業である過酸化水素誘導品の農業分野への展開として1977年に国内で初めて畑作用酸素供給剤を上市。それ以来、農作物の育成環境を改善する

など健全な生育の促進をコンセプトに普及を進めてきた。一方、朝日アグリは堆肥など有機資材のトップメーカーとして、家畜ふんや食品工業産物などの未利用資源を有効活用した独自の粒状化技術による堆肥ペレットなどを開発し、資源循環型社会と環境保全型農業の推進をけん引している。

保土谷化学は中期経営計画「SPEED25/30」の2025年度までの事業戦略ロードマップにおいて、新たな事業領域である環境重視型農業資材を戦略事業の重要施策として位置づけている。朝日アグリは第3次中期経営計画に掲げる基本戦略の一環として複合農業資材の拡充を目指しており、両社の方向性が一致したことから今回の共同開発契約にいたった。

開発する複合農業資材は、両社が持つそれぞれ



の資材の特徴である土づくりに着目し、それらを組み合わせることで肥料効果と湿害対策、好気性微生物の増加や作業効率化といった効果を実現する計画。今後、両社では事業化に向けて製品開発ならびに市場への供給に取り組んでいく。